

2025 年 9 月 27 日

閉塞性大腸癌に対する SEMS・人工肛門造設術・ハルトマン手術の長期予後の比較

◆研究の目的と概要◆

閉塞症状を伴う cStage II～III 大腸癌を対象に、初期治療の違いによる全生存期間(OS) および無病生存期間(DFS)を比較検討し、長期予後も考慮した適切な治療法の選択肢を検討する。

◆対象となる患者さん◆

2016 年 4 月から、2025 年 7 月までの間に、cStage II～III（大腸癌虫垂、Ra 直腸、Rb 直腸、肛門管癌を除く）であると診断された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

- ① 患者さんの背景情報（年齢、性別、病歴、身長、体重、ASA-PS）
- ② 治療内容（SEMS 留置日、人工肛門造設日、根治術前治療の有無、入院日、手術日、手術時間、術式、出血量）
- ③ 治療経過（術後合併症、退院日、術後補助化学療法の有無、全生存期間、無病生存期間）
- ④ 病理学的検査結果（癌占拠部位、癌の性質）

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 11 月 1 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

外科 研究責任者 樋口北斗

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明